

奥津軽いまべつの海藻資源で健康・長寿なまちづくり事業

遊佐貴志

目 的

奥津軽いまべつ地域を海藻利用により活性化させることを目的とする事業において、当該地域の藻類相に関する情報が少ないため、補完することを目的とし調査を行った。

材料と方法

平成27年6月に東津軽郡今別町内の海岸3か所（岩屋観音、襲月、浜名）を調査地点に設定し、潮間帯の藻類相調査を行った。調査は目視による被度調査と採取を行った。被度調査は1m²の方形枠内に100点を等間隔（10×10）に設定し、各点の種を記録した。採取は0.5m四方（0.25m²）で行い、採集物は水産総合研究所に持ち帰り、種同定の後、種ごとに湿重量を測定した。また、方形区に入らなかった種も記載するために、30分（採集時間×採集人数）の自由採集も行った。

平成27年10月と12月、平成28年3月にも調査を行ったが、日中の干潮時の潮の引きや天候が悪かったため、被度調査と採取は行わず、自由採集のみを行った。

結 果

6月に採集された藻類の1m²当たりの重量を表1に示す。岩屋観音では14種が出現し、ウミトラノオが優占しており、ネバリモやサンゴモも目立った。襲月では12種が出現し、ウミトラノオが優占しており、サンゴモやマツノリも目立った。浜名では11種が出現し、ハバノリとカヤモノリが優占していた。

フリー採集では各地点でアカモク、ヨレモク、フシスジモク等のホンダワラ類が潮下帯上部より採集された。

表 1. 各海岸の6月の海藻組成 (g/m²)

岩屋観音		襲月		浜名	
種名	湿重量(g)	種名	湿重量(g)	種名	湿重量(g)
ウミトラノオ	2,539.9	ウミトラノオ	1,054.5	ハバノリ	291.9
ネバリモ	342.5	サンゴモ	360.0	カヤモノリ	270.5
サンゴモ	119.2	マツノリ	235.3	ウミトラノオ	75.5
マツノリ	113.1	ジョロモク	49.1	アナアオサ	24.5
ソゾ属	76.0	ソゾ属	19.3	イトグサの一種	23.9
フクロフノリ	32.7	オキツノリ	3.3	イソムラサキ	16.7
フシスジモク	18.8	ツノマタ	2.4	ネバリモ	12.3
ツルモ	3.7	スギノリ	0.9	シオグサ科	6.3
スギノリ	2.8	アミジグサ	0.8	ツノマタ	5.7
アナアオサ	2.8	サンゴモ	0.7	アミジグサ	4.1
シオグサ科	1.0	マクサ	0.3	マクサ	1.1
マクサ	0.8	シオグサ科	0.3	合計	732.4
イソムラサキ	0.8	合計	1,726.9		
アカバギンナンソウ	0.3				
合計	3,254.4				

考 察

3地点共通して見られたのはウミトラノオのみで、地点ごとに異なる藻類相が形成されていた。中でも浜名は他2地点とは優占種も異なるなど独特の藻類相であった。これは、岩屋観音と襲月が岩礁や平磯で囲まれた海岸であるのに対し、浜名は開放的な海岸で直接波が当たるといように物理的環境が異なっていたためと考えられた。